

多面的機能支払交付金

あぜの草刈り対策

草刈りも新時代へ!

—— 草刈りはもっとラクになれる ——



当協議会では、草刈り作業効率化技術の促進のために、令和2年度～令和5年度に「草刈りフィールド・ラボ」として2つの事業を実施しました。

- 現地研修会(安全管理講習と併せて最新の傾斜用草刈機体験)
- 草刈り作業作業の省力化に向けた実証実験

このパンフレットでは、「草刈りフィールド・ラボ」を通してわかったことや、実証実験の検証、最新の情報などを踏まえて、「草刈り作業の省力化」や「新たな体制づくり」のポイントについてとりまとめました。



草刈りフィールド・ラボ

目的

農村の維持保全活動で最も負担の大きい草刈り作業の省力化技術について、活動組織が現地の展示ほ場で体験できる研修会・安全講習等や視察を定期的で開催する。
 なお、併せて展示ほ場での効果実証も実施する。



研修対象者 県内の活動組織、県、市町の多面的機能支払の担当者

場所 佐用郡佐用町仁方地内(グランドカバーのみ淡路市楠本地内)

期間 令和2年度～令和5年度(4ヶ年)

●事業内容

展示ほ場での実証等	①傾斜用草刈機	自走式、リモコン式、トラクター装着式等	作業時間等
	②グランドカバー	2種類	密生までの時間
	③高刈り	ジズライザー(刈払機安定板)	回数、イネ科雑草被植率
	④足場設置	楽カル(法面ステップ)	作業時間
	⑤抑草剤+刈払い	グラスショット液剤(抑草剤)	回数、イネ科雑草被植率
	⑥慣行	慣行(通常の草刈り)、回数減、時期ずらし	草丈、影響の違い等
現地研修会の開催		展示ほ場での説明、傾斜用草刈機等の作業体験、安全講習等	
視察の受け入れ		展示ほ場での説明、安全講習等	



研修会の開催

全農兵庫県本部生産資材部及び佐用町水土里会の全面協力により、令和2年から4年間にわたって以下の内容で研修会を実施しました。研修会には4年間で延べ約700名が参加しました。

① 草刈機(刈払機及び自走式草刈り機)の安全使用に関する研修

全農兵庫県本部の担当者並びに草刈機展示メーカー担当者により、草刈機の安全な使い方の実演講習を行いました。



② トラクター用アーム式の説明と実演

設置の仕方や刈り方などメーカー担当者の説明後、地元オペレーターによる斜面草刈りの実演を行いました。



③ リモコン草刈機の展示及び実演

リモコン草刈機メーカー担当者により、リモコン草刈機の展示、説明及び実演を行いました。

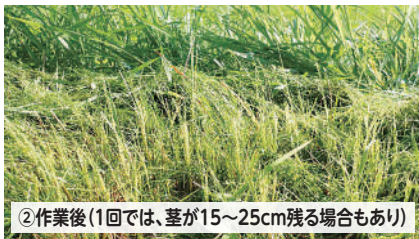


実証ほ場の検証結果

今回の検証方法にあたっては、「使用条件・推奨事項に制限があるかどうか」、「専門的な技術であり使用が難しいかどうか」、「作業人数が多いか少ないか」「作業時間が長いか短い」など10の評価項目で検証を行いました。ここでは、その検証結果及び使用者の意見を簡潔に記述します。

① 傾斜用草刈機(トラクターアーム式)

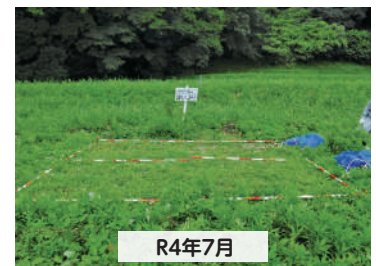
- ① **条件**: 平坦な道路への接道など、複数の使用条件がある
- ② **技術**: 装着は技術が必要だが、仕様はトラクターの運転が出来れば可能
- ③ **人数**: 安全確保のために最低2名が必要
- ④ **時間**: 最初の装着に時間がかかる(数時間)など初心者では難しい
- ⑤ **安全**: 操作盤が右側後ろのため、前方確認が出来ず、路肩と斜面の走行安全確認ができない
- ⑥ **疲労度**: 刈取り作業だけであれば体力的には楽だが、装着準備からトータルで考えると疲れる
- ⑦ **効果**: 草が細かく粉碎され、見た目が良く、ミミズ発生も防止されて獣害対策にもなる
- ⑧ **畦畔の機能維持**: 特に問題は生じていない
- ⑨ **継続性**: 実証地よりも比較的規模の大きい平坦地のほうが向いている(継続性がある)
- ⑩ **コスト**: 通常の草刈りよりも高額



② グランドカバー

実証地では、ムカデ芝(センチピードグラス)を法面に様々なパターン(量や除草剤の有無による8区画)で植栽し、3年間の実証を行った。(ただし繁茂するまでには至っていない)

- ① **条件**: センチピードグラス導入に関する特別な条件はない
- ② **技術**: 除草剤を散布するタイミング等、施工方法には注意が必要である
- ③ **人数**: 定植作業には人数が必要だが、その後の草刈りは通常と同じである
- ④ **時間**: 定植作業には時間が必要だが、その後の草刈りは通常と同様に実施できる
- ⑤ **安全**: センチピードグラスが繁茂すれば草丈が低くなり、作業の安全性も高まる
- ⑥ **疲労度**: 雑草が少ない分、作業の疲労度は低い
- ⑦ **効果**: ピット苗(密生)、ピット苗(疎生)の順に雑草が少なく効果が高い
- ⑧ **畦畔の機能維持**: センチピードグラスが繁茂することで、畦畔の維持は可能
- ⑨ **継続性**: 繁茂しないまでも雑草が少なくなっており、草刈回数の減につながる
- ⑩ **コスト**: センチピードグラスの苗・除草剤の購入費、定植の作業費などが必要



③ 高刈り(安定盤使用)

- ① 条件: 特になし
- ② 技術: 特に必要なし。ただ、低く刈れないため、草丈が高くなる傾向にある
- ③ 人数: 通常の草刈りと同じ
- ④ 時間: 平均所要時間は通常の草刈りと変わらない
- ⑤ 安全: 安定板を使うと石が飛びにくいので、通常の草刈りより安全である
- ⑥ 疲労度: 安定板が重たいのが難点で、体力的に疲れるとのこと
- ⑦ 効果: R2-R5年度の平均草丈高さ(作業前)は高刈りした場合としない場合とでは違いがない
- ⑧ 畦畔の機能維持: 特に問題は生じていない
- ⑨ 継続性: イネ科雑草が優占している箇所には不向きだが、広葉雑草が優占している箇所であれば継続して使用できる
- ⑩ コスト: 安定板購入費がかかるが、数千円程度

※実証地はイネ科雑草が優占しているため、高刈りを始めてから3年、4年目になってもイネ科雑草が多く、効果がみられなかった。



④ 足場設置

- ① 条件: 設置の許可が必要。老朽化した場合は修繕、更新が必要
- ② 技術: 設置に技術を要する。(業者へ委託等が必要な場合も)
- ③ 人数: 足場設置前は3人で75分かかっていたが、設置後は1.5人で104分であった
- ④ 時間: 設置前と同じ3人で換算した場合、52分となり明らかに設置後の方が作業時間が短い
- ⑤ 安全: 足場があるほうが安全であるが、草丈が高いと足場が見えず転倒の恐れがある
- ⑥ 疲労度: 通常の草刈りよりも疲労度は少ない
- ⑦ 効果: 設置後は草刈のスピードも速くなり、効率も良くなった
- ⑧ 畦畔の機能維持: 特に問題は生じていない
- ⑨ 継続性: 継続使用していきたいが、足裏全体が密着するよう幅30cm程度の製品のほうが良い
- ⑩ コスト: 足場設置用の資材費がかかる。また、設置を委託した場合は委託費等も必要



⑤ 抑草剤+刈払い

- ① **条件**: 畦の崩れはみられない。薬剤散布は多年生雑草が対象。一年生雑草だと枯れる恐れも
- ② **技術**: 抑草剤散布に特別な技術は不要。草刈り直後に抑草剤散布すると良い
- ③ **人数**: 通常の草刈りと同じ2名
- ④ **時間**: 草刈りと抑草剤散布で2往復必要。労力がかかるが、年間を通せば草刈り回数が軽減
- ⑤ **安全**: 安全性は通常と同じ
- ⑥ **疲労度**: 年間で考えれば草刈り回数が減るので、疲労度も軽減される
- ⑦ **効果**: R2-5年度の平均草丈高さ(作業前)は抑草剤23cm、通常の草刈り28cmと効果がある
- ⑧ **畦畔の機能維持**: 特に問題は生じていないが、やや土が見える箇所もあったため注意が必要
- ⑨ **継続性**: 実証後もこの方法で継続していきたいが、抑草剤を連続使用すると畦畔が崩れるかもしれない
- ⑩ **コスト**: 噴霧器、薬剤の費用がかかる



抑草剤散布前



噴霧器による抑草剤散布



抑草剤散布後

⑥ 慣行(通常の草刈り)、回数減、時期ずらし

- ① **条件**: 今回の実証地では、回数減・時期ずらしともに問題は生じなかった
- ② **技術**: いずれの方法も技術的に難しい点は特になし
- ③ **人数**: 慣行と同じ1名
- ④ **時間**: 慣行と同じ
- ⑤ **安全**: 慣行と同じ
- ⑥ **疲労度**: 回数減は年4回から3回に減るため、慣行より楽である。時期ずらしは慣行と同じ
- ⑦ **効果**: 全工種でR2-5年度の平均草丈高さ(作業前)はほぼ同じ(慣行32cm、時期ずらし37cm、回数減39cm)
- ⑧ **畦畔の機能維持**: 特に問題は生じていない
- ⑨ **継続性**: 回数減は継続したい
- ⑩ **コスト**: 特に費用はかからない



◀作業前
(全体)



◀慣行
(平均草丈32cm)



◀時期ずらし
(平均草丈37cm)



◀回数減
(平均草丈39cm)

これからの「草刈り」を見直そう！

今後、担い手への農地集積が進み、草刈り作業人員がさらに減少するため、草刈り作業の省力化に加えて、非農家参加や共同作業化の拡大など新たな体制づくりが必要。

これまで

農家数の減少、高齢化が進むなか交付金を活用して、維持保全が図られてきた

- ・あぜ草刈りの共同作業化が約4割まで増加（農道・水路・ため池は約6～9割）
- ・非農家が参加する共同作業化は約1～3割にまで増加
- ・土地持ち非農家の約8割が草刈りに参加
- ・傾斜用刈払機の利用は約3割まで増加

これから

担い手への農地集積が進むことで、草刈りの作業人員はさらに減少するため、地域の状況に応じた2つの対策が必要

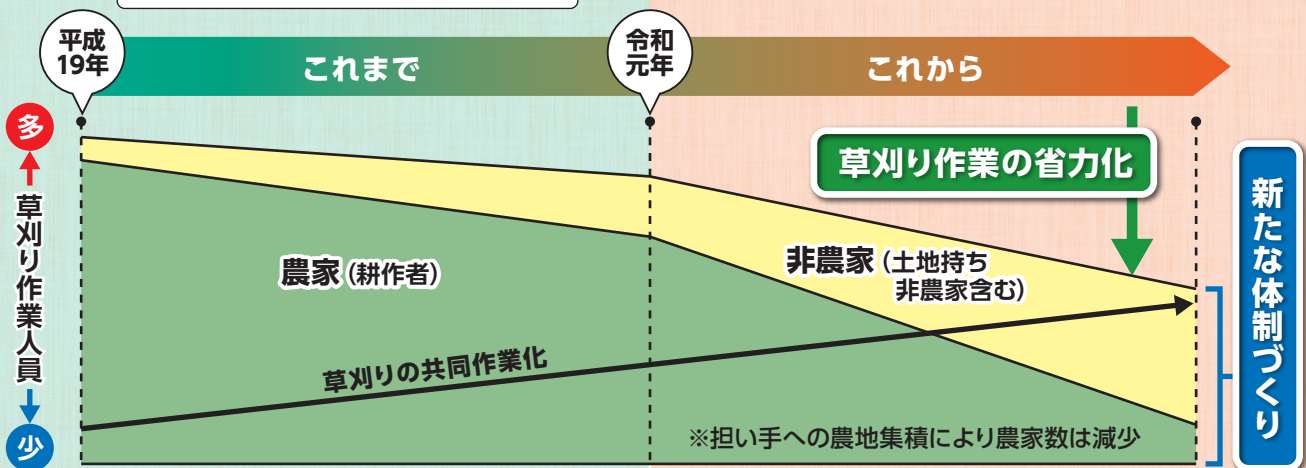
草刈り作業の省力化

傾斜用草刈り機の導入等による草刈り作業時間・作業量の減少

新たな体制づくり

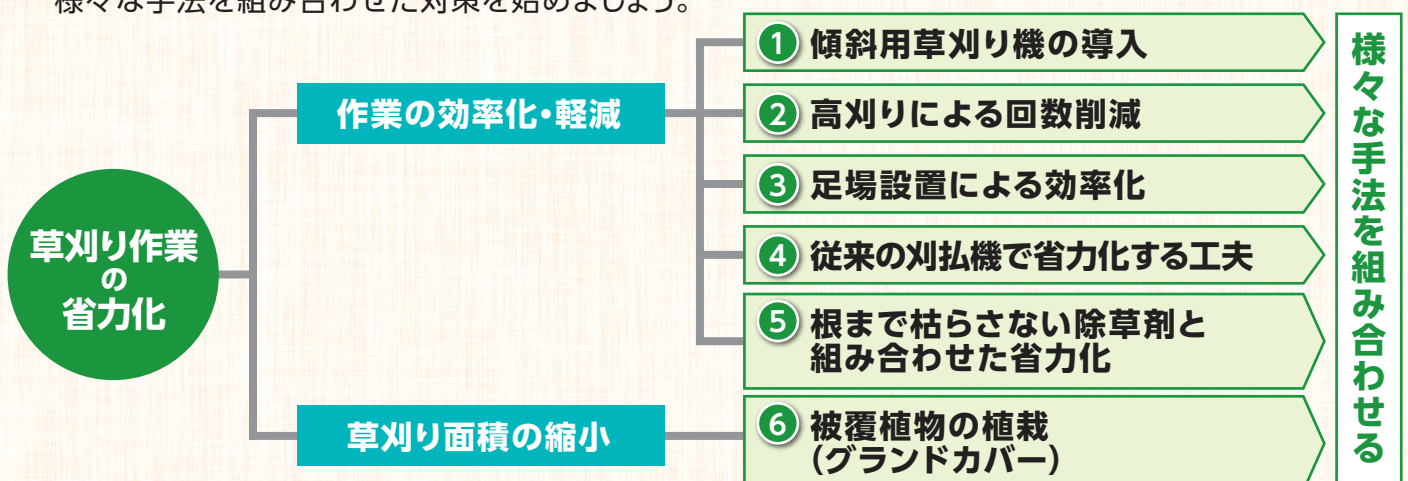
草刈り隊など非農家等の活動参加者の増加による草刈りの共同作業化の拡大

● 草刈り作業人員の推移



草刈り作業を省力化しよう！

草刈り作業を省力化するためには、作業の効率化・軽減と草刈り面積の縮小が必要。作業労働力、畦畔や法面の形状や植生状況、環境創造型農業への影響、地域性等を踏まえ、様々な手法を組み合わせた対策を始めましょう。



1 傾斜用草刈機の導入

交付金

機械購入・点検整備、リース、レンタル等に
使用可

傾斜用草刈機は従来の刈払機に比べ、**約2～7倍の作業能力**があり、**草刈りの作業時間を大幅に短縮**することができます。また、従来の刈払機よりも草が細かく粉碎されるため、草刈り後の集草作業も省力化されます。また、**従来の刈払機と傾斜用草刈機を上手に組み合わせる**ことによって、作業者の負担が軽減され、効率的な草刈りが可能となります。

この他にも様々な機種が
開発されています！

主な傾斜用草刈り機

機械の種類	外観	使用場面	概算金額	省力化のポイント	使用する際の留意点
自走式草刈機		法面	約10～30万円	傾斜のある法面でもハンドルも伸ばさず、法面の上面を歩きながら法面の草刈りが出来る。	ハンドルを伸ばす際には機械を保持する力が必要。
自走式草刈機 (二面刈)		平坦な畦畔、 傾斜のある畦畔	約20～30万円	畦の上面と側面を同時に刈ることが出来る。	畔の上面が水平である必要がある。
トラクター用 アーム式		幅がある 長い法面 (面積の広い法面)	約85～220万円	面積の広い法面を効率的に刈ることが出来る。	トラクターに装着する為、平坦な道路に接道している法面であることが条件。
リモコン式 草刈機		畦畔・法面	約100～400万円	リモコンを用いて機械を動かすだけで草刈りが出来る。	草刈を行う法面の条件(法面幅・長さ・傾斜角度・用水路の有無等)、主な雑草種等によって適切な機種を選択する必要がある。
親子式傾斜地 草刈機		傾斜が急な畦畔 (20～最大60度)	約170万円	傾斜地の上で親機を操作し、ワイヤロープで繋がった子機を使うことで、非常に急な傾斜でも刈ることが出来る。	傾斜50～60度での作業時には法面の上面に1m以上の平坦地が必要。また使用者は講習会への参加が必要。

「草刈りフィールドラボ」の現地研修会での主な傾斜用草刈機が動く様子などは
こちらのQRコードを読み込んでご覧下さい。(YOUTUBEへリンク)



トラクター装着式草刈機



自走式草刈機



リモコン式草刈機

② 高刈りによる草刈り回数の削減・安全対策

交付金

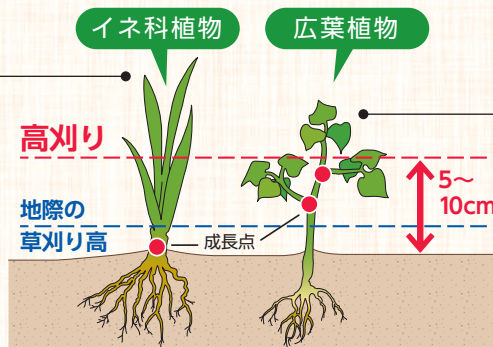
安全板の購入、
実証試験等に使用可

広葉植物が多い場合などは、高刈りでイネ科植物を抑えられる可能性あり!

- ・ 広葉植物が多い場合などは、地面から5~10cmの高さで高刈りすれば、広葉植物の成長点が残りがること
とで、イネ科植物を抑制することが可能という実験結果があります。
- ・ イネ科植物が抑制されると、草丈が低く抑えられることで、草刈りが楽になります。



葉っぱが細長い



葉っぱが丸っぽい

安定板を使えば、簡単かつ安全に作業できる!

- ・ 安定板(従来の刈払機の裏面にカバーを取り付ける商品)で手軽に高刈りが可能です。
- ・ 安定板を装着したほうがより安定し、楽に機械が取り回しできます。また、小石などの飛散も減らせるなど、安全性が向上します。



例:刈払機用安定板(高刈りタイプ)

POINT

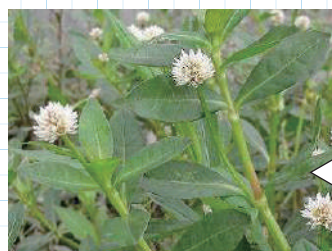
- イネ科植物が多かったり、外来植物が多い場合は、逆効果となった事例もあるため、まずは1年間試して効果があるか確認してから、地域で実施していきましょう。
- 安定板を装着した分だけ重くなるため、草刈り初心者など草刈りに慣れていない方などは、慎重に選びましょう。

コラム 特定外来生物「ナガエツル/ゲイトウ」に要注意!

湿った環境に生える多年草の水草ですが、陸域でも生えます。2mmの根から再生した例もあるほど繁殖力が強いです。

刈払機で刈り取ったり、土にすき込んでしまうと、広範囲に被害を拡げる危険が…

また、長靴や服に断片が付着して運ばれないよう、確認・洗浄作業を実施しましょう。



4月から10月にかけて柄の先に小さな球状の白い花をつける

発見したら
県に通報を!



【兵庫県】ひょうごの環境HP

3 足場設置による効率化・安全対策

交付金

足場資材購入、
設置経費等に使用可

従来の刈払機による斜面での草刈作業は、転倒などの危険性が高く、足腰への負担が大きくなっています。そこで、法面の途中に**水平の足場を設置**することで、**安全で効率的な草刈り作業が可能**になります。

項目	機械による作業道の造成	プラスチック製足場の設置	板柵の設置
外 観			
内 容	歩行型溝掘機(管理機、片排土)で法面を削り、作業道を造成、スコップ等で叩き締める	法面に樹脂製品を3本の杭で固定(製品寸法:幅120×高180×長1000mm 3kg)	杭42mm角×60cmを打ち込み、板(厚24×幅180mm)を当てて、上流土羽を削り作業道を造成
足 場 幅	25~30cm	12cm(やや狭い)	30cm
材 料 費	—	(参考)約1,980円/m	(参考)約510円/m
設置間隔	斜長で2m程度に1箇所(刈払機の届く範囲となるよう設置)		
備 考	草が生えるまでに侵食しやすい 作業速度:100m/30分	野焼きができない・盛土が不要 長500mmの階段用もある	野焼きができない 普通木材は耐用年数が短い

草刈りフィールド・ラボの実証実験でわかったこと

約35度の斜面の畦畔にプラスチック製足場(延長74m)を2段設置しました(階段も含めて施工費約110万円)。その結果、足場が安定し、**作業効率と安全性が向上**したことがわかりました。なお、草刈りフィールド・ラボを通して、以下の足場設置ポイントがわかりました。実際に導入する際は留意してみましょう。

POINT

- 作業スペースがしっかり確保できるように、作業する方の身長や使用する刈払機に応じて、設置する段の数や、段と段の間の幅を調整するなど、じっくり検討しましょう。
- 草刈り作業前に、足場自体の劣化がないか、確認しましょう。
- 足を乗せる幅を広くできると効率・安全性はさらに向上します。足の裏全体が足場に接着するように設置の際に工夫しましょう。
- 刈払機が足場のプラスチックに食い込むことがあったり、歯が劣化していると跳ね返りがあって危険です。また、草丈が高いと、足場が見えず、転倒の恐れがあります。状況に応じて注意しながら作業しましょう。

4 従来の刈払機で省力化する工夫

交付金

機械購入・点検整備、リース、レンタル等に使用可

従来の刈払機を使用した場合でも省力化できる可能性があります。
草刈りの回数や機械を見直して、効率化を目指しましょう。

1年間の草刈り回数を見直してみよう

皆さんは1年間に何回、草刈りを実施していますか？草刈りの目的は、害虫防除や美しい田園風景の保全など、さまざまな理由があると思います。

目的に応じた草刈り回数を、地域で話し合ってみるといことも、草刈り省力化のひとつの方法です。

傾斜地や畦畔で使用する従来の刈払機の選び方

従来の刈払機を使う場合でも、傾斜地や畦畔での使用にあわせた選び方によって省力化を図ることが期待できます。

POINT

重さに注目しよう！

一般的な傾斜地や畦畔では、排気量24ccの刈払機に10インチのチップソー(255mm)を付けて使うことが多いです。ナイロンコードを使う場合は、排気量26cc程度の刈払機が必要です。排気量が大きいくほど刈払機の重量は重くなります。草刈りの面積や傾斜、ご自身の体力などもふまえて、使いやすい重さを選びましょう。

斜面では 背負いタイプがおすすめ

刈払機には、肩掛けタイプ・背負いタイプがあります。特に斜面は背負いタイプが刈りやすく、機械が少々大きくても疲れにくいとされています。使いやすさなどもふまえて、疲れにくいタイプを選びましょう。



肩掛けタイプ



背負いタイプ

草刈りフィールド・ラボの実証実験でわかったこと

「草刈りフィールド・ラボ」の実証実験では、1年間の草刈り回数を4回から3回に減らし、4年間試しました。その結果、害虫が発生したり、稲への影響が生じたという結果は出ず、また回数減による草丈の成長具合が草刈りの実施や疲労度に影響を与えることはありませんでした。このような草刈り回数減もご検討ください。

5 根まで枯らさない除草剤と組み合わせた省力化

交付金

薬剤・散布機器購入、
散布経費等に使用可

「従来の刈払機による草刈り」と「根まで枯らさないタイプの除草剤」を組み合わせることで、畦畔、法面の草刈り作業の省力化が期待できます。また、電気柵の周りなど、従来の刈払機による草刈りが難しい場所との相性が良いです。



草刈りフィールドラボの実証実験でわかったこと

実証実験では、根まで枯らさない除草剤（非選択性茎葉処理除草剤）を、適期（6月～7月）に使用することで、夏場の草刈回数を低減できました。



「根まで枯らさないタイプの除草剤」とは？

- 草を枯らすのではなく、その伸びを抑えて草丈を低く保つ除草剤の一種です。
- 比較的長く効果があるため、草刈りの労力が軽減できます。ただし、草の種類によって効果が違うため、根を枯らしてしまわないように使用の際には注意が必要です。

⚠ 使用する上での留意点

- 除草剤を使用する際は、必ずラベルに記載してある内容をよく読み、表示のとおりを使用する事
- 農作物の栽培・管理のために使用する除草剤は、必ず農薬登録されている除草剤を使用する事（非農耕地用の除草剤は、農作物の栽培・管理のために使用する事は出来ません）
- 除草剤の散布は、無風又は風が弱い時など、近隣に影響が少ない天候・時間帯に行うとともに、飛散防止ノズルやカバーを使用し、ドリフト対策を実施する事
- 畦畔、法面は、雑草の根が張ることによって保持されているため、根を枯らしてしまうと崩れてしまう事がある。したがって除草剤を使用する場合は根まで枯らさない除草剤を選択することが望ましい
- 根まで枯らさない除草剤であっても、連続で使用すると畦や法面がもろくなり、崩れる原因になるため、刈払いと組み合わせて使用する事
- 抑草期間や枯れる度合いは、どの除草剤を使うか、どのような草がどれくらい生えているか（＝現況植生）によって異なります。ラベルの記載事項を確認し、適切に使用しましょう

1. 農薬登録のある除草剤



容器・包装に

農林水産省登録
第〇〇〇〇〇号

の記載があります

2. 農薬登録のない除草剤



容器・包装と
店舗の見やすい場所に

「農薬として使用
することができない」

旨の記載があります

6 被覆植物の植栽(グランドカバー)

交付金

シート、種子・苗等の資材購入、設置経費等に使用可

ランナーを伸ばして地面を被覆する植物は、一般的に被覆植物(グランドカバー)と呼ばれています。被覆植物で地面を覆うことで、他の草の侵入や生育を防ぎ、草丈を低く抑えることができます。その結果、草刈り回数の削減や、降雨による土壌侵食の防止が期待できます。

草刈りフィールド・ラボの実証実験でわかったこと

「草刈りフィールド・ラボ」の実証実験では、ムカデ芝(センチピードグラス)を法面に様々なパターンで植栽し、3年間実験しました。その結果ピット苗を密もしくは格子目状にまばらに定植する方法で比較的定着が良いことがわかりました。(1m²あたり市販ピット苗200本/トレイ、約200円)



苗にも色々な種類があります。一般的にピット苗の方が定着しやすいですが、価格が高くなります。



ピット苗



匍匐茎苗

POINT

ムカデ芝(センチピードグラス)を使用する場合、定着を促すために、根まで枯らす非選択性除草剤の散布が望ましいとされています。

作業項目	施工時期
根まで枯らす非選択性除草剤の散布①	定植作業の5週間程度前
枯草除去・法面整形①	雑草が枯死した後
根まで枯らす非選択性除草剤の散布②	1回目散布1か月後、定植1週間前に完了
枯草除去・法面整形②	定植作業の直前
ムカデ芝(センチピードグラス)定植	—

コラム

兵庫県北播磨県民局において実証実験を実施中!

加古川流域土地改良事務所では、地域の活動組織と協力して、令和4年度からセンチピードグラスの定植実験を行っています。今後の成果が期待されます☆



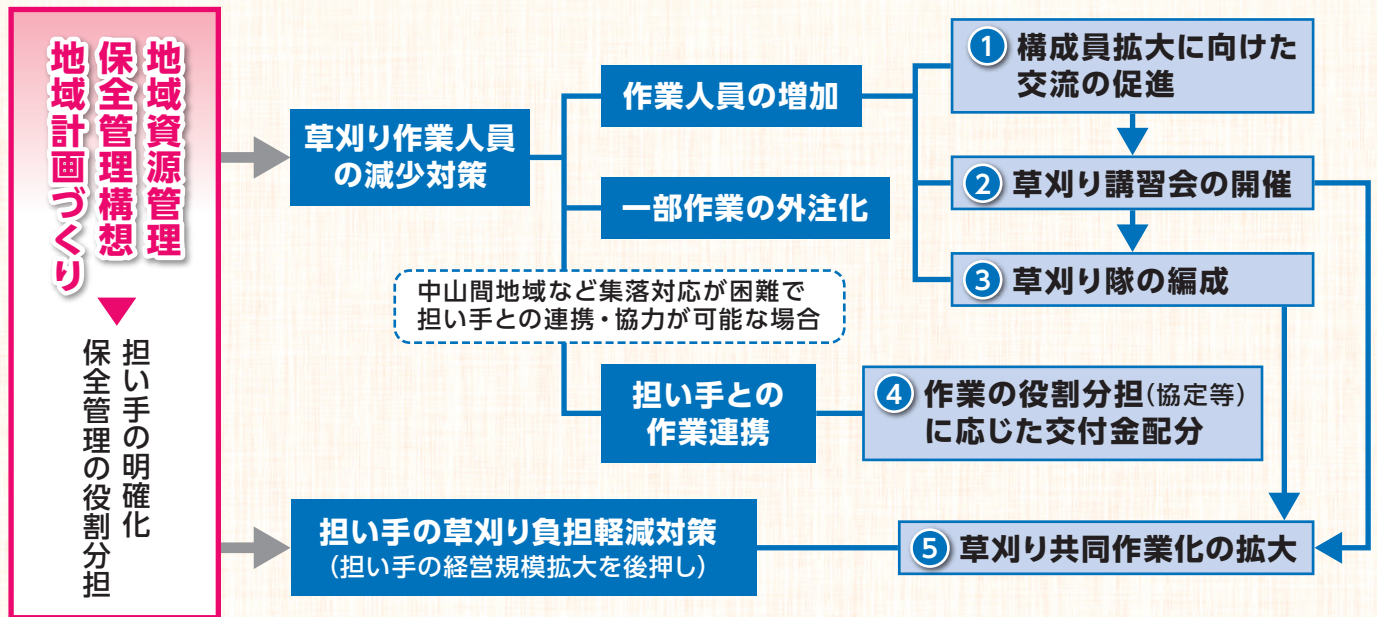
詳しい情報はこちら



兵庫県HP

今後の持続的な新たな草刈り体制づくり

草刈り作業の省力化に加えて、今後の草刈り作業人員の動向や担い手との役割分担を踏まえた持続的な新たな草刈りの体制づくりを始めましょう。



POINT

体制づくりを考えるポイント

地域ぐるみの保全体制を考える際には、「自助」「共助」「公助」の視点がポイントとなります。これまでの共同活動は「自助」がメインでしたが、高齢化などによる地域内の共同活動の担い手不足などの状況をふまえて、今後は「公助」を上手に活用しつつ、「共助」も上手に取り入れていくことが考えられます。

視点	内容	具体的な取組の例
自助	自らの集落内・地域内で解決を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ● 集落内の参加者を増やす ● 草刈りの回数を減らす ● 草刈りを行う場所を選ぶなど
共助	周辺地域などの力を借りる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業ボランティア ● 草刈り隊など
公助	市町、県など行政の力を借りる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 多面的機能支払制度などの補助金の申請・受給 ● 市町や県の講習会に参加する ● アドバイザー派遣 など

1 構成員の拡大に向けた交流の促進

交付金

収穫体験等のイベント・PR経費等に使用可

草刈りも農村環境を守る活動として、地域内の非農家や企業、福祉施設などへ活動参加を呼びかけましょう。まずは、構成員の裾野を広げるためのイベントなど交流から始めよう。



地域内
非農家、企業、福祉施設、団体
など



地域外
都市住民、企業、大学生、NPO
など

参加しやすいイベント
(収穫体験、かいぼり、祭など)
や
清掃から交流を開始



新たな仲間づくり

2 草刈り講習会の開催

交付金

刈払機賃料、講師謝金、傷害保険等に使用可

非農家など草刈り初心者向けに、安全な草刈り機の操作方法等の講習会を開催。都市住民の中には、草刈りは達成感があって楽しいという方もおられ、草刈り体験講習会としての開催も可能。

事例 岡農地保全会(上郡町)
地域全員が協力して活動できるよう、女性の参加拡大に向けた「女性向け草刈り講習会」を開催 ※軽量で柄の短い女性用刈払機あり



R2~R5当協議会実施の「草刈りフィールド・ラボ」での刈払機の安全講習の様子

刈払機安全講習の動画はこちらのQRコードからご覧下さい (YOUTUBEへリンク)



3 草刈り隊の編成

交付金

日当、機械購入・賃料、傷害保険等に使用可

地域内の非農家等へも呼びかけ、共同活動とは別働の「草刈り隊」を編成しよう!

大型モアなど機械導入と組み合わせることで効率的な作業が可能。P2参照
地域内に声をかけ新たな人材を発掘しよう。今後の働き方改革における新たな副業としても期待される。

事例 豊岡市中谷農事組合法人「草刈隊」

- ・集落の農家・非農家を問わず若手に声を掛け「草刈隊」を組織
- ・メンバー23人(30~40代若手中心)
- ・年5回(1回当り9人の当番制)
- ・組合所有モア・自走式草刈り機使用
- ・道路沿いを「草刈隊」が担当することで個人作業量が半減



事例 草谷川環境保全協議会(加古郡稲美町)

- ・近隣の草刈りグループより刺激を受け新たな草刈りプロ集団「稲美畦師」を令和6年4月に設立
- ・池の堤体の草刈りの場合、地元役員が作業に数時間要していたところを僅か30分で作業完了するなど、大幅な時間労力の削減になっている
- ・これから実績を重ねて、人数が増えれば、活動範囲を増やしていきたい

草谷川環境保全協議会



精鋭
部隊

稲美畦師



4 作業の役割分担(協定等)に応じた交付金配分

交付金

協定に基づく担い手担当分の作業経費に使用可

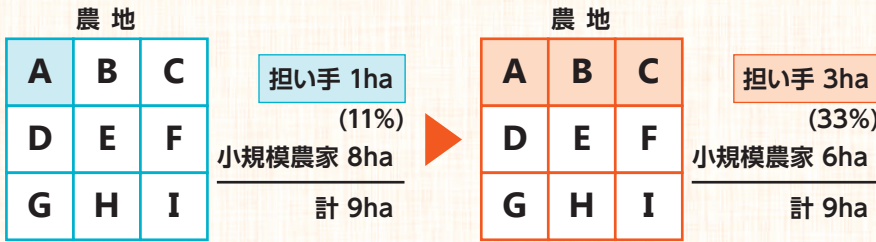
活動組織と担い手との話し合いにより、草刈り、水路や農道など施設の保安全管理の役割分担等を協定書等で明確にする場合は、担い手への作業分の交付金を配分することが可能。

現行

今後

例

協定書



- ①担い手が行う作業
ABC農地の畦畔、農地に隣接する農道・水路の草刈り
- ②活動組織が行う作業
残る農地、農道・水路の草刈り
- ③交付金の配分ルール
交付金(農地維持+共同)の配分方法を定め、その範囲内で担い手へ作業経費を支払う

今後の集落の農業についての話し合い

担い手の明確化
草刈り等の役割分担検討

地域計画の策定
地域資源保安全管理構想

担い手と活動組織との協定書等の締結

協定書に基づく作業等の実施

担い手から活動組織へ
作業経費の請求
活動記録の提出
(日報、写真、領収書等)

活動組織から担い手へ
支払い



POINT
▶まずは、担い手を組織の構成員に位置付けた上で、今後の担い手へ預けたい農地面積、担い手の経営状況、活動組織の作業能力、交付金額等から作業分担や交付金配分ルールの検討が必要。

5 草刈り共同作業化の拡大

交付金

日当、機械購入・賃料、委託(外注)等に使用可

地域計画で定めた担い手の負担を軽減し、経営規模を拡大できるよう、これまで耕作者・所有者対応していた「農地と農地の間の畦畔」や「農地に隣接する法面等」についても交付金を活用して、共同作業の範囲を拡大していきましょう。

現行①

所有者or耕作者

所有者or耕作者

現行②

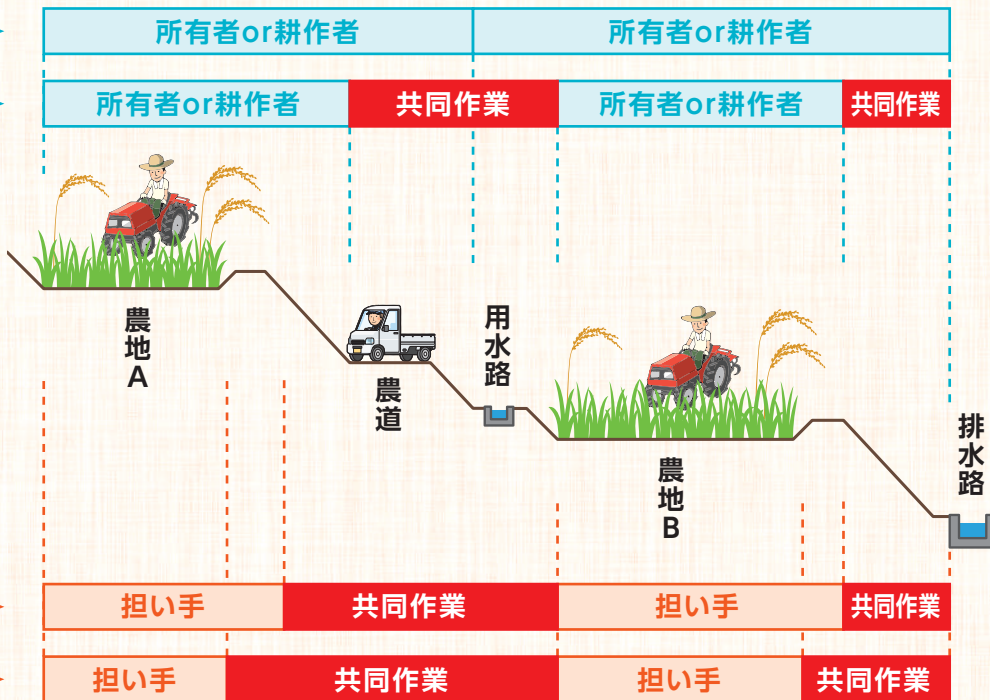
所有者or耕作者

共同作業

所有者or耕作者

共同作業

担い手を交えた
地域での話し合い



POINT
▼傾斜の大小や地域の様々なルールもあります。が、高齢で草刈りできなくなった所から、共同作業化していくなど、担い手を交えた地域での話し合いにより段階的に拡大していきましょう。

将来①

担い手

共同作業

担い手

共同作業

将来②

担い手

共同作業

担い手

共同作業

※この他にも様々なパターンが想定されます



兵庫県多面的機能発揮推進協議会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5-5-12 兵庫県土地改良会館
TEL 078-360-6605 FAX 078-360-6606
メール tamen.kyougikai@hyogo-noouchimizu.com

兵庫県農政環境部農地整備課 農村計画班

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
TEL 078-362-3431 FAX 078-341-2101
メール nouchiseibika@pref.hyogo.lg.jp